

2007. 2. 27 第23号



地域づくりコミュニケーション  
— 農村振興メールマガジン —

農林水産省農村振興局



◆◆ 目次 ◆◆

【 農村振興支援情報 】

■ 美しい農村を守り育むために

- ◇バイオマス関連事業地区の紹介（その4）  
～大分県日田市の取組～

- ◇平成18年度食アメニティ・コンテストの選賞について

- ◇平成18年度「立ち上がる農山漁村」選定事例の紹介

■ 地域の実態に応じた多様な取組

- ◇財団法人 飯山市振興公社なべくら高原・森の家

- ◇京の田舎ぐらし・ふるさとネット メールレター

- ◇NPO法人やまぼうし自然学校研修生募集

■ 報告・お知らせ

- ◇「農山漁村活性化支援窓口」を設置しました！

- ◇農村景観応援団第2回会合が開催されました！

- ◇第12回青空市場が開催されました！

- ◇第13回青空市場の開催について

- ◇地域産業マネージャー研修セミナーのご案内

■ 農村振興局各課の紹介

◇水利整備課を紹介します！

\*\*\*\*\*

■ 美しい農村を守り育むために

◇バイオマス関連事業地区の紹介（その４）

～大分県日田市の取組～

大分県日田市は、北部九州のほぼ中央に位置し、周囲を阿蘇・九重山系や英彦山系等の美しい山々に囲まれた景勝地です。古くから北部九州の各地を結ぶ交通の要衝として栄え、歴史的な町並みや伝統文化が、今なお脈々と受け継がれています。また一方で、西日本の自治体ではいち早く環境管理の国際規格ISO14001の認証取得を行うなど、「環境都市日本一」の取り組みを進めています。その一環として、平成17年6月に公表したバイオマスタウン構想の中核施設であるメタン発酵発電施設（日田市バイオマス資源化センター）と木質バイオマス発電施設も相次いで、本運転を開始しました。

この取組で最も特徴的なことは、養豚農家と一般住民等との連携です。この施設は豚糞尿、生ごみ、農業集落排水汚泥を原料としていますが、メタン発酵のためには豚糞尿は有機物濃度が低く、逆に生ごみは有機物濃度が高いため、両者を組み合わせることで最適な有機物濃度となり、適正な施設運営が可能となりました。施設の運営費は養豚農家や事業所等からの処理料と家庭系生ごみ等を処理する負担金として市の一般財源で賄われています。

また、畜産地域での悪臭、水質汚濁等の環境問題が解消されることで、一般住民等の養豚農家への理解が高まると同時に、歴史の街、観光の街としての新たな展開が期待できます。

このようにバイオマス利活用施設を通じて地域の新たなコミュニティが形成され、地域での連携が強まるなど、新たな効果を見出した取組といえます。今後国としてもこのような取組を支援していきたいと考えています。

詳細は日田市環境都市のホームページをご覧ください。

<http://www.city.hita.oita.jp>

（地域整備課集落排水・地域資源循環室）

\*\*\*\*\*

◇平成18年度食アメニティ・コンテストの選賞について

「食アメニティ・コンテスト」は、農山漁村の女性グループ等が地域の特産物を活かし、地域の食文化の保存・開発とその普及に自主的に取り組み、「食」

を通じた起業活動などで地域づくりに貢献している優秀な活動事例を表彰するとともに、これら優良事例を普及することにより地域の活力の増進を図り、農山漁村の振興並びに都市と農山漁村の共生・対流の促進に資することを目的として実施しているものです。

今年度、道府県知事から34件の推薦があり、書類審査と現地調査を経て、1月に開催された食アメニティ・コンテスト審査会（審査会長：浜 美枝氏）の審査の結果、優秀賞（農林水産大臣表彰）3点、優良賞（農村振興局長表彰）3点及び（財）農村開発企画委員会理事長表彰3点）6点が決定しました。

なお、表彰式は3月14日に開催される「第4回オーライ！ニッポン全国大会」（東京都）において執り行われます。

受賞者の概要等については、こちらをご覧ください。

[http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/amenity/syoku\\_contest/index.html](http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/amenity/syoku_contest/index.html)

（農村政策課農村整備総合調整室）

\*\*\*\*\*

#### ◇平成18年度「立ち上がる農山漁村」選定事例の紹介

1月17日に首相官邸で開催された有識者会議で、平成18年度「立ち上がる農山漁村」50事例が決定されました。今回はその中から埼玉県宮代町の「農のあるまちづくり」の取組を紹介します。

埼玉県宮代町は、都市近郊にあって雑木林や開墾当時の堀上げ田（ほっつけ）など町の原風景である豊かな自然環境と美しい農村景観を残しています。

宮代町では、「農」のあるまちづくりの理念のもと、町の施設「新しい村」を整備しました。現在では、多くの町民ボランティアが参加して、町の農村風景を維持するための活動が行われています。

また、「新しい村」では、地産地消の流通を進めるための農産物直売所の運営や、体験農業や市民農園、料理講座など「農」にまつわる講座による食育・生涯学習の展開、農作業受託による遊休農地の解消、ルーキー農業塾の開催による新規就農希望者の支援などの幅広い事業を町民出資による運営会社で行っており、行政と町民が一体となって「農」によるひとづくり、まちづくりを進めています。

「立ち上がる農山漁村」の取組は次のHPをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/tatiagaru/newpage9.htm>

（農村政策課農村整備総合調整室）

\*\*\*\*\*

#### ■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇財団法人 飯山市振興公社なべくら高原・森の家

「森の家」は、長野県飯山市の最北部、鍋倉山の裾野に広がる“なべくら高原”にある“グリーン・ツーリズム”の拠点施設です。

6ヘクタールの雑木林の中には、コテージ10棟と管理棟のほか、炭焼き小屋、車いすでも散策できる遊歩道、自然散策路、芝生広場といった体験・宿泊施設があります。

また、景観を守る里山再生活動やブナの森の保全活動を行う「いいやまブナの森倶楽部」、長野、新潟両県にまたがる国有林内に設置するロングトレイルの運用を行う「NPO法人信越トレイルクラブ」などの事務局を運営し、地域活性化の柱となる拠点施設を目指しています。

地元の素材や自然を活用した体験プログラムは300種以上におよび、グリーン期は、ブナ・ミズナラの森での自然散策、森林の素材を活用したクラフト、260ヘクタールにおよぶ農地における農業体験。ホワイト期は、豪雪地ならではの“かんじき”やスノーシュー、クロスカントリースキーなどの体験を用意しています。これらのプログラムは、常勤インストラクター5名と「市民インストラクター」240名によって、企画・運営されています。

詳細は次のHPをご覧ください。

<http://www.iiyama-catv.ne.jp/~morinoie/>

※この取組は平成18年度「立ち上がる農山漁村」にも選定されています。

(長野県農政部農地整備課寄稿)

\*\*\*\*\*

◇京の田舎ぐらし・ふるさとネット メールレター

農山村部で進行する担い手不足の一方で、長寿化に伴う新たな暮らし方として「農のあるライフスタイル」を求め、農山村に移り住みたいと考える都市住民が近年増えています。

京都府及び京の田舎ぐらし・ふるさとセンター（事務局：京都府農業会議）では、「京の田舎ぐらし」をはじめたいと考えている方に、農山村での暮らしを学ぶ講座や体験ツアーなど、田舎暮らしに関する情報をホームページやメールレター（月1回：第4水曜日発行）により紹介しています。

田舎暮らしを考えている方はぜひ御活用ください。

京都府の田舎暮らしに関するHPは次をご覧ください。

<http://www.pref.kyoto.jp/inaka-gu/index.html>

京の田舎ぐらし・ふるさとセンターのHP（メールレターのお申し込みはこちらから）

<http://www.agr-k.or.jp/~kyoto-j/inaka/index.html>

(京都府農村振興課寄稿)

\*\*\*\*\*

◇NPO法人やまぼうし自然学校研修生募集

NPO法人やまぼうし自然学校では、やまぼうし自然学校の各種事業に携わるプロスタッフの養成を目的として、研修生及び職員候補生を若干名募集しています。

1. 勤務開始日：平成19年4月1日（相談可）
2. 勤務期間：勤務開始日～6ヶ月
3. 業務内容：
  - ・プログラム研修（準備、実施、片付け）
  - ・道具研修（使用法、メンテナンス、管理）
  - ・その他当学校が実施する各種事業に関わる研修
4. 応募の詳細、問合せ先はHPをご参照ください。

[http://www.yamaboushi.org/news/news\\_staff3.htm](http://www.yamaboushi.org/news/news_staff3.htm)

(NPO法人やまぼうし自然学校寄稿)

\*\*\*\*\*

■ 報告・お知らせ

◇「農山漁村活性化支援窓口」を設置しました！

農林水産省では、平成18年10月、福井農林水産大臣政務官を本部長とする農山漁村活性化推進本部を設置し、農山漁村の活性化の推進に取り組んでいます。

この一環として、2月1日、農林漁業者等の相談に応じるため、地方農政局等の9カ所に「農山漁村活性化支援窓口」を開設しました。

詳しくは、

[http://www.maff.go.jp/www/press/2007/20070129press\\_7.html](http://www.maff.go.jp/www/press/2007/20070129press_7.html)

をご覧ください。

(農村政策課)

\*\*\*\*\*

◇農村景観応援団第2回会合が開催されました！

農村景観応援団の第2回会合が、1月29日に農村振興局で開催され、昨年2月に結成された農村景観応援団のこれからの活動内容と農村景観を通じた地域活性化への取組に関して話し合いました。

これからの活動内容としては、①応援団のホームページ、②農村景観に関する

る広報用のパンフレット、③応援団による現地調査などについて議論があり、「広報用のパンフレットには、美しい農村景観ばかり紹介するのではなく、普通の暮らしの風景とか、元気な農村を紹介していくことも大切」などの意見がありました。

また、農村景観を通じた地域活性化への取組に関する議論では、「農業振興と景観保全をどう両立させていくのかということについてイメージを作ることが重要」、「農村の人々が自らの地域にプライドを持って個性的な村づくりをしていくことが大切」などの意見がありました。

更に、農村振興局の各種施策とも連携を図りながら、今後とも戦略的に活動を進めていくことが重要との認識で一致しました。

「農村景観応援団」のメンバー等の詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/21j/ouendan.pdf>

(農村政策課農村整備総合調整室)

\*\*\*\*\*

#### ◇第12回青空市場が開催されました！

平成19年2月25日(日)に「第12回青空市場」が有楽町の東京国際フォーラムにおいて開催されました。

今回も、山形県鶴岡市の「羽黒・のうきょう食品加工有限会社」、福島県いわき市の「(有) トマトランドいわき」、埼玉県宮代町の「(有) 新しい村」、島根県海士町、熊本県南阿蘇村の「おあしす米生産組合」などの「立ち上がる農山漁村」選定事例が参加しました。会場は、各々の地域ならではのユニークな加工品等について生産者と語り合うお客さんの賑やかな声であふれていました。

=====

#### ◇第13回青空市場の開催について

第13回青空市場が平成19年3月22日(木)～24日(土)の3日間で、神奈川県パシフィコ横浜展示ホールB ふるさと食品全国フェア内で開催されます。「立ち上がる農山漁村」選定事例も出展予定です(入場無料)。

(農村政策課農村整備総合調整室)

\*\*\*\*\*

#### ◇地域産業マネージャー研修セミナーのご案内

今、農山漁村では地域資源を活用して、地域活性化を進める人材が求められています。

このため、まちむら交流きこうでは、地域資源に根ざした地域ブランド化や

新たな起業の推進役として地域で活躍するために必要な基礎知識、ノウハウ、ヒントを学ぶ研修セミナーを下記の通り開催します。

多彩な講師陣を揃え、じっくりと話を聞けるようプログラムをご用意していますので、皆様の参加をお待ちしています。(参加には事前の申し込みが必要です。申し込み手続き等に関してはお問い合わせ先まで。)

○地域産業マネージャー研修セミナー

- ・研修期間：平成19年3月26日(月)10:00~17:55  
27日(火)9:00~14:40(予定)
- ・研修場所：GRS ビジネスセンター八重洲 annex  
(JR東京駅八重洲南口徒歩3分)
- ・定員：60名
- ・研修経費：2,000円(資料代等)

○研修会講師(五十音順)

- ・井上 弘司氏(長野県飯田市 産業経済部企画幹 観光カリスマ)
- ・関原 剛氏(新潟県上越市 NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部専務理事、協同組合ウッドワーク顧問)
- ・千賀 裕太郎氏(東京農工大学農学部地域生態システム学科教授)
- ・福井 隆氏(東京農工大学 生物システム応用科学府客員教授)
- ・古野 俊彦氏(島根県江津市 農業生産法人(有)桜江町桑茶生産組合 代表取締役)
- ・政所 利子氏((株)玄 代表取締役)
- ・横石 知二氏(徳島県上勝町(株)いろどり 代表取締役副社長)

○お問い合わせ先：まちむら交流きこう 佐藤・木下 TEL 03(3548)2718

<http://www.kouryu.or.jp>

(農村政策課)

\*\*\*\*\*

■ 農村振興局各課の紹介

◇水利整備課を紹介します！

水利整備課では、農業水利施設の整備と管理、畑地帯の総合的整備、農業排水の水質保全対策、国営地区全般の水利権協議といった農業生産の基幹をなす水利条件の整備に係る総合的な業務を行っています。

具体的には、ダムや頭首工、用排水路などのかんがい排水施設の整備、畑地における生産基盤と環境整備を一体的に行う総合整備、地域用水機能や歴史的

な価値をもつ農業水利施設の整備、農業排水の水質浄化や農地の土壌流出防止を行う施設整備などのハードの整備、また、国営土地改良施設の公的管理、管理技術の向上、管理体制の強化、来年度から本格的に実施する機能保全・予防保全計画の策定に基づき保全・対策を行うストックマネジメントなどを行っています。

説明するまでもなく、農業用水は地域資源として重要なものの一つであり、今後の日本農業の発展のため農業用水を守っていくことが我々の使命でもあります。当課全員全力で努力していきたくと思っていますので、ご支援、ご協力をお願いします。

(水利整備課)

\*\*\*\*\*

#### ◆◆ 編集後記 ◆◆

今年は例年になく雪が少なく、日本海側での積雪は平年の半分以下のところも多いとのこと。我が家の子ども達は毎年雪遊びを楽しみにしていますが、今年は全く雪がないので「今年は雪が降らないのでつまらない」と、ブーイングが起っています（私に言われても困るのですが）。

確かに、冬が暖かく雪が少ない分生活はし易くなりますが、やはり季節感がなくなるのも寂しい気がします。

先日、クマも暖冬の影響で不眠？なのか、全国で出没が相次いでいるとの報道もあり、クマも人間以上に暖冬の影響を受けているのかもしれない。(S)

\*\*\*\*\*

#### ◆◆ ご意見をお寄せ下さい ◆◆

本メールマガジンに対する皆さまの声を遠慮なくお寄せください。また、皆さまの地域での活動や取組の紹介などもお願いします。皆さまからのご質問・ご意見、地域の活動などの情報につきましては、可能なかぎり回答あるいは紹介させていただきます。

また、読者の輪を更に広げていきたいと考えていますので、皆さまにおいて本メールマガジンに関心を持っていただけそうな方をご存じでしたら、どしどしご紹介いただきますようお願いします。

\*\*\*\*\*

#### ■ 編集発行

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局企画部農村政策課（担当）佐藤

TEL:03-3502-5946 FAX:03-3595-6340 mail:mailto:nouson\_mm@nm.maff.go.jp

\*\*\*\*\*